

科目名	東アジア地域論	科目コード A0030
-----	---------	----------------

専攻名・学年	全専攻1学年 (プログラム3学年)	担当教官	佐藤 公俊		
単位数	2単位・選択	開講期間	前期	時間数	30 時間
				内訳 ^(時間)	講義(28), 演習() 実験(), その他(2)
教科書	教科書 平川均・石川幸一編著：新・東アジア経済論 (ミネルヴァ書房)				
補助教材	プリント、インターネット				
参考書	アジア2000 (経済企画庁レポート)				

A 科目の概要	
1, 日本と東アジア地域の政治的・経済的諸関係の分析、考察と展望。 2, 日本と東アジア地域の歴史的関わりの考察。	
B 到達目標	
1, 「東アジア共同体」についてなど日本の対アジア関係のあるべき姿を展望すること。 2, 東アジア地域経済に関して教科書の担当章について報告すること。 3, 東アジアについて歴史的な深みと社会的・世界的な広がりを持つ視野を養うため、東アジア地域経済または興味のある国の経済について個人レポートをまとめ、提出すること。 4, 3の個人レポートにより、プレゼンテーションを行うこと。 5, 4のプレゼンテーションを視聴して評価すること。	
C 長岡高専の学習・教育目標との対応	(B)
D 履修上の注意	
東アジア地域経済に関して、担当章の報告をすること、および興味のある国の経済について調査して個人レポートをまとめ、それをもとにしたプレゼンテーションを行う義務があることに留意してください。	
E 評価方法	
1, 「東アジア共同体」について、日本の対アジア関係のあるべき姿を展望した報告書の評価。(10%) 2, 東アジア地域経済に関して担当章について共同で行ったレポートと報告発表の評価。(計20%) 3, 東アジアについて歴史的な深みと社会的・世界的な広がりを持つ視野を養うため、東アジア地域経済または興味のある国の経済についてまとめて提出した個人レポートについて、1回目の課題と資料提出、2回目の分析考察意見書の評価。(計30%) 4, 3の個人レポートにより行うプレゼンテーションについて、プレゼンファイルの作成/提出と発表の評価。(計30%) 5, 4のプレゼンテーションを視聴して、各自で行う結果報告の評価。(10%) 定期試験【60%】(報告書(30), プレゼンテーション(30)), その他【40%】(授業時の担当章報告、小論文提出状況、発言状況)の割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格点とする。	

F 授業計画・内容		
週	内 容	備 考
1	ガイダンス	
2	日本と東アジアの関係の現状と課題（１）	外務省の把握と方針
3	日本と東アジアの関係の現状と課題（２）	テキスト序章
4	東アジアの IT 化、金融危機と回復	
5	東アジアへの日本企業の展開（雁行的発展論）	
6	東アジアの経済成長、開発理論、通貨危機	テキスト 5 章、6 章
7	ASEAN の発展	テキスト 1 章
8	NIES の発展、朝鮮半島情勢（緊張緩和への道）	テキスト 2 章
9	中国の経済大国化：後発 IT 大国へ	テキスト 3 章
10	東アジア地域主義	テキスト 11 章
11	日本の経済協力：ODA と JAICA の役割	テキスト 13 章
12	日本とアジアの将来	テキスト終章
13	まとめと報告 1 学生によるプレゼンテーション	
14	まとめと報告 2 学生によるプレゼンテーション	
15	試験	
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		